

令和6年度研修 評価

研修名	訪問看護従事者研修会（スキルアップ編）				
領 域	訪問看護	会場	新潟県看護研修センター	受講料	会 員：2,200 円 非会員：6,600 円
対 象	募集数 応募数 参加数 会員数 非会員数 第1回:募集数 60 人 応募数 52 人 参加数 46 人 会員数 29 人 非会員数 17 人 第2回:募集数 60 人 応募数 47 人 参加数 44 人 会員数 30 人 非会員数 14 人 第3回:募集数 60 人 応募数 59 人 参加数 54 人 会員数 39 人 非会員数 15 人 第4回:募集数 40 人 応募数 44 人 参加数 42 人 会員数 27 人 非会員数 15 人				
日 時	令和6年4月20日（土曜日）～12月7日（土） 9：30～15：30 または 10：30～16：30				
ねらい（目標）	質の高い訪問看護サービスの提供に向けて、知識・技術を学び実践に活かすことができる				
講 師	1 田中 美央 新潟大学大学院保健学研究科看護学領域小児看護学 准教授 1 渡邊美帆子 新潟市教育委員会 指導主事 1 桑原 拓 長岡療育園/新潟県医療的ケア児支援センター「ゆい・にじいろ」 重症心身障害児者・医療的ケア児者アドバイザー 1 篠田まなみ 訪問看護ステーションもも 管理者 2 佐藤 博幸 訪問看護ステーションセレナ 所長 3 宮子あずさ 精神科病院 看護師 3 早川 貴紀 新潟医療福祉大学看護学部看護学科 助教 精神看護専門看護師 3 小幡 郁子 公益社団法人新潟県栄養士会 管理栄養士 4 徳原 伸子 厚生連柏崎総合医療センター 感染管理特定認定看護師 4 廣澤 利幸 ひろさわ内科医院 院長				
内容・方法	○講義 1日5時間 講義、グループワーク、演習				
結 果	○参加者割合 第1回 86.7% 第2回 78.3% 第3回 98.3% 第4回 110.0% 【達成・未達成】 ○アンケート結果 ・理解度 82% 【達成・未達成】 ・自己課題の達成度または研修目標（知識・技術）の習得度 85% 【達成・未達成】 ○受講者の意見 ・小児訪問看護では、ベストよりも家族全体のベターを考えていくという言葉が、小児分野に慣れていない立場として、勉強になった。その反面、普段関わりの少ない方からの講師であり、進むスピードについていけないことがあった ・精神科訪問看護では、今までの関わり方について振り返りをすることで自分の安心材料になったが、精神疾患別の関わり方の講義も聞きたかった ・虐待の中では、看護倫理的観点に沿っての研修であり、倫理綱領の重要性を実感した。				

評価基準：
①参加数が募集数の70%以上
②研修内容の理解度（できた、ほぼできた）80%以上
③自己課題の達成度又は研修目標（知識・技術）の習得度（できた、ほぼできた）80%以上
④アンケートの意見

	・食支援では、地域によって浸透されていないことから具体的な事例を聞くことができたが、栄養ケアステーションの話が長かった。 ・検査データについては多くの資料をいただいたが、ボリュームがありすぎ、浮腫についてはもう少し詳しく聞きたかった。 ・感染対策では、現在行っている感染対策について振り返り、反省に繋がられた
評 価・総 括	○目標達成の評価：【研修会の目標は達成した・達成しなかった】 ・色々な専門分野に対しての講義であったため、具体的内容についての講義であり、実践に繋がられるような内容であった。またスタッフの自信や安心感に繋がられることが多かった。 ・具体的な講義であるからこそ、講義時間が短く、ボリュームが多すぎてしまうこともあり、講義内容と講義時間の調整をしていく必要がある。 ○総括 ・専門分野のより深い内容の研修会を開催していくことで、看護ケアに対してのスキルアップへのきっかけや、自分達の自信につなげることができている。 ・どのような分野を学びたいか、情報収集をしていく必要がある。 ・講義に関わる多職種の方の講義を聞き、具体的な事例を通して自分達の看護を振り返る機会につなげていきたい。
課 題	精神・小児看護は継続とし、病態については、パーキンソン病と慢性心不全についての理解を深められるに研修を企画する。
担当者	訪問看護推進委員会